

林大だより



第70号 平成27年10月11日

長野県林業大学校翌松会



2 学 年 オーストリア研修



1 学 年 屋久島研修



2 学 年 保健休養学（林業総合センター）

徒然山づくり

長野県林業大学校 校長 宮崎 広雄



私は三十八年間林業技術職員として、林道整備を除く様々な山づくりの仕事に加え、自然公園の利用施設の整備に携わらせていただきました。

初任で経験させていただいたのが治山事業です。昭和五十年代当時は、谷止工の施行等が主な業務で、設計書の作り方、材料のコンクリートから学ばせていただきましたが、それ以前に数字の書き方から指導を頂いたのを鮮明に覚えています。地域の方々の御要望を頂き、完成までこぎ着けた際には、地域の方々から感謝を頂き、地域の安全に寄与できているとの実感が得られる業務でした。

次の業務は、林業普及指導員で特用林産を担当しました。ホダ場診断、品評会など

生産者の方と接する中で、実際の知識や技術を学ぶことができた一方、誠意をもって接したつもりが、些細な行き違いで亀裂が生じる等、人との接し方の難しさを認識させられた業務でもありました。

次なる自然公園の利用施設を整備する業務では、登山道整備事業の立上げや、電気・水の供給の困難な山での快適なトイレづくり等、少々異質な経験でしたが、山・森林を保健休養の場として利用する場合でも、安全と快適性は欠かせないことを学ばせていただきました。

そして、旧治山課で保安林の許可事務を担当した際には、スキー場、ゴルフ場開発が最盛期で沢山の案件に追いつまづられる中、森林の保全と地域の活性化のバランスが難しいことを思い知らされました。

その後、林産・普及・林務係長等、松くい虫被害対策や、近年、重要な課題となっている木材利用、野生鳥獣対

策等を経験させていただきました。

こうした業務を通じ、「森林・山づくり」は、市町村の担当の方をはじめ、殆どの皆様から後押し、期待を頂ける本当に有難い仕事だと感じたところです。

また、「山づくり」は、その時々の評価、要望は様々でも後世に繋ぐことができるよう一貫性のある施策の下に進めることが必要ではと考えております。



2学年 オーストリア研修の様子

「全人教育について」

長野県石川森林管理署長 小林 伸一 (一期生)



大は、専修学校でありながら一般教養課程もあるという欲張りな学校でもありました。おかげで、「高校よりも短い夏休み」といった不思議な体験もしましたが…。

私が林大に入学したのは、もう三十七年前のことです。入学当時は、まだ校歌もなく、校庭もなく、黒川ではゲンジボタルが飛び交い、校舎の周りには田んぼが広がっていました。休みの日には、よく蛇やドジョウを捕って食料にしたものです。

入学当時、校長は故市川圭一先生でした。入学するなり、市川校長から「ここでは全員が寮に入って共同生活をしてみよう。共同生活では、個のわがままは許されない。耐えることを学んでもらう。寮はあえて足音が響く木造建築にした。これは、他人を思いやる心を育てるためである。」といった厳しいお言葉をいただきました。「全人教育」の始まりです。また、林

大は、専修学校でありながら一般教養課程もあるという欲張りな学校でもありました。おかげで、「高校よりも短い夏休み」といった不思議な体験もしましたが…。

二年生の頃だったでしょうが、長野県庁の木曾営林署長（現木曾森林管理署長）が来校されたときのことです。署長から「林大の学生はきちんと挨拶が出来る。トイレのスリッパもキチンと並べられている。長野県として、このような人材がぜひほしい。」旨の話があったと聞きました。当時はあまり気にも留めませんでした。今では、当時の署長の気持ちがよくわかります。学生の皆さんは、今でも四人部屋での少し窮屈な生活をされていると思いますが、その経験は、これから先の人生にきつと活かされることと思います。

ちよつと長野県庁のPRをします。長野県では、林大出身者が百名を超え、長野県本庁

教育実習と安全について

林大外部講師 中下 正一



や全国の局・署で活躍しています。林大を卒業すると、国家公務員一般職（高卒程度）に加え、同職（大卒程度）の受験資格も得ることが出来ま

す。在校生の皆さん、ぜひチャレンジしてみてください。お待ちしております。

林業大学校に関わりを持たせていただいてから多くの年数がたちました。

最初に職員として勤務したのが昭和五十八年の四月、それ以来内部職員、外部講師を合わせて現在まで通算四回約十七年間に亘っております。この間ほとんどが実習にかかわる現場で学生と一緒に林業技術者としての技術修得に一生懸命取り組んできました。この間大きな事故もなく今日に至っていることに安堵をしております。しかし過去の実習を振り返ってみると、地搾えの実習で、チェーンソーに

より左太ももを切創した、伐倒木の枝が頭部に当たった、架線集材機エンジン始動時にハンドルの手をはねられた、枝打ち実習で左手を鉋で切創した等、一歩間違えば重大事故に繋がるケースに何回か遭遇しております。教育実習で重大事故を起こすことはあつてはならないことです。

近年は林業現場にも新規の作業職員が多く参入しており、それに伴って重大事故も発生しております。共通していることは、作業（実習）現場にどのような危険があるかよく理解できないまま作業（実習）現場に立っていることです。

特に教育現場においては危険要因について十分理解させたいので実習現場に立たせることが重要であると考えてい

ます。過去の林業現場での事故を分析してみると自己の責任に帰す例が多く見受けられます。

これを防止するため、林業労働災害防止協会を中心にリスクアセスメント、危険予知活動、指差し呼称の三点セットで事故防止に取り組んでおります。教育実習現場においても事故防止の観点から同様の教育実習が必要と思われるですが、経験を伴わないとできないものもあります。

この中で、最も効果のある指差し呼称は十分実施が可能な安全教育であり、事故防止の観点からも大きな効果があるものと思われま

す。実習を伴う全ての教科で共通して取り組みを進め、習慣づけることが卒業後現場に携わる学生にとって、自己の安全は自らの行動で守る訓練として、大きな効果があるものと期待されます。

学生諸君も積極的に取り組んでみては如何でしょうか。



2学年
オーストリア研修の様子



同窓会からのお願い



御嶽山噴火災害から1年が経過しましたが、いまなお復興途中の木曽地域を応援するために、様々な取組が行われています。

そこで、同級会を木曽で行うとか、会社のイベントや旅行を木曽で行うとか、会員の皆さんを中心に最大限の応援をお願いします。

2年間を過ごした「木曽地域」を盛り上げましょう！

（同窓会長 6期生 小山 雅之）

学生の
ページあす
なる
の
呟

つぶやき

学 校 ・ 寮 生 活 か ら

入学してから
半年たつて1 学年
市川 真実

長野県林業大学校に入学して半年が経ちました。屋久島研修に行ったり、

御嶽登山道整備に参加したりなど、この半年間あつという間に過ぎていきました。

入寮前、寮生活はどのようなものなのか、どんな人達がいるのだろうか、友達はあるだろうか、期待でいっぱいでした。その反面、家での炊事、洗濯、掃除はすべて親にやつ

てもらっていたので寮で生活できるのかとても心配でした。

入寮当日、学校に着くとたくさん先輩方が笑顔で出迎えてくれて少し安心しました。実際に学校・寮生活が始まり、普通科では習わない専門教育科目が入ってきて普通科から来た私は授業についていくのが大変でした。ですが



1 学年 情報処理学

寮の先輩方に教えてもらっています。

直接、森林組合に就職せずに知識、技術を身に付けてから就職したいという私の願いを受け、学校に出してくれた両親や先生方に感謝して残りの一年半就職に繋がるよう頑張っていきたいです。

林業大学校に
入学して1 学年
黒川 葵

林業大学校に入学して半月がたちましたが、これまでとてもあつという間だったと感じます。普通高校だった僕にとつては、毎日がとても内容の濃いものでした。もちろん林業に関する勉強はこれまでやったことがありませんでしたし、その上、外に出る実習も加わってくるので、最初は戸惑うことばかりでした。しかし、先生たちが基本的なところから分かりやすく教えてくださり、先輩たちも優しく教えてくれる中で、戸惑うこ

とも少なくなり、さらに当初より日々の授業に対して意欲的になったと思います。まだまだ、これから今よりも一段と難しくなると思いますが、しっかりとついていけるように頑張りたいと思います。

林業大学校生活は二年間という短い時間です。一つでも多くの知識を吸収し、将来を見据えてこれからの生活に励みたいと思います。

林業大学校に
入学して1 学年
千代 宗平

林業大学校に入学して、早くも六ヶ月が経ちました。入学当初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、今は毎日と



1 学年 県植樹祭 (大町市)

でも忙しく、一日一日がとても早く過ぎて行きます。難しい一般教養科目やチェーンソー等の機械を使った実習など、今まで経験したことのない講義ばかりでとても楽しいです。実際に山に入って測量や毎木調査をし、専門知識や技術を習得する授業もあり得意と不得意分野があります。が、分かりやすく指導して下さる先生方や、優しく教えてくれる先輩方のおかげで日々



1 学年 造林学実習



1 学年 特用林産学（新しい実習棟）

四月の始めに入学し、気が付けばもう半年が過ぎようとしています。この半年間は僕にとっては、初めての体験ばかりでした。まず寮生活では、僕は親元を離れて生活をしたことがほとんどなかったので、寮生活が始まる前は少し不安がありました。が、優



1 学年 丸山 恭史

長野県林業大学校に 入学して

い先輩や先生方にぎやかな同級生のおかげで、今では不安など無く毎日楽しく生活することができています。勉強面では、僕は自分で言うのもなんです。勉強が苦手な、高校も普通科高校で実習をしたことが無かったので、入寮したての頃は林大の勉強・実習について行けるか不安でしたが、先生方が基本から教えてくれたのでなんとか勉強について行けています。林大に入学し、半年過ぎようとしていますが、気を緩めることなく、残りの一年半を過ごし将来に繋げていきたいと思っています。

充実した生活を送っています。寮生活も最初は不安でしたが、寮母さんが毎日一生懸命作ってくれる美味しい食事や、楽しい仲間のお陰でとても楽しく過ごしています。これから勉強や実習、仲間との共同生活を大事に生活していきたいです。また、二年間という短い期間の中で、将来を見据えてよく考えて、自分と向き合い頑張っていきたいです。



1 学年 橋口 武文

林業大学校に 入学して

林業大学校に入学して、六カ月がたちました。私は、鹿児島県屋久島から来ていますが、長野県は鹿児島に比べて湿度も気温も低いので、夏

は涼しくてとても過ごしやすかったです。勉強の面では、一般教養科目を始め林業の専門科目の講義もあるため、色々大変です。座学のほかに、機械を使った実習や山に入っている実習などの勉強もあり、充実した環境で勉強をさせてもらっています。寮生活では、全寮制なので全員同じご飯を食べ、同じ風呂に入り先輩達・同級生達と毎日楽しく過ごしています。入学してから毎日が初めて体

験する事ばかりで新鮮です。これから冬の時期に入って、鹿児島では知らなかった雪のある生活が始まるので、体調を崩さないように頑張りたいと思います。



1 学年 測量学

残りの林大生活を

2 学年
小池 歩惟

林大に入学してから、あっという間に残すところ五ヶ月

程となりました。

私は、これまで自分の将来のためとはいえ、とても自由に行動させて頂きました。今ではそのお陰もあって自分の進路も決定し、次のステージへ進むことが出来ています。しかし、今まで外での活動を重点的に行ってきたが、その分座学がおそろそかになっていました。なので、残

りの五ヶ月は苦手な勉学に当てられたらと思います。

また、その他にも必要な課題は山のようにあるので、今後は、今の自分に足りないものを補い、お世話になった方々に感謝の気持ちを込めつつ、残りの林大での生活を有意義に過ごしたいと思っています。

そして、将来的には自分の目指している最終進路を決定させ、お世話になった方々へ恩返しが出来るといいなと考えています。

林大生の繋がりが

2 学年
佐々木 愛

二学年になり、外部での研修が多くなりました。入学当初から林業作業員として働くことを希望としていたため、現場での研修が多くなったことはとても嬉しく思いました。卒業後に現場で活躍されている先輩がおり、その事業体にも研修に行きました。以

前からお話を伺っており、現場で働くこ

との上での危険なことや悪いこと、後悔したことなども聞きました。それが以上に従事する前向きな姿勢や林業の魅力、面白さを教えてもらいました。仕事を任せられ、素早くこなす先輩の姿はとて

私の目標です。林大は学年問わず距離が近く気軽に話を伺えることが大きな魅力の一つであると思います。二年間しかない学生生活ですが今までのどの時間よりも濃く、幅広い分野で行われる林業を学ぶことができ、これからも関わるであろう多くの方々を知り合える機会がたくさん詰まっています。目指すものがある今、支えてくれる周りの存在がとてもありがたく感じます。



2 学年 車両系建設機械技能講習（グラウンド）

こんにちは

2 学年
高山 龍之介

こんにちは！私は、この学校に来て良かったことについて話したいと思います。この学校は二学年しかなく、全校生徒がたったの四十名です。私は小学校の頃、全校生徒が

女子寮長として 思ったこと



2 学年
成田 有美子

一、二〇〇人以上もいる学校にいたのですが、話したこともないし、見たこともない人ばかりでした。仲の良い友達ばかりといえることが多かった私ですが、今は違います。人数が少ない上、それぞれ性格も違います。合う合わないある人たちばかりですが、その

人たちと日々同じところで生活しています。この学校に来て、様々な人がいて、その中でも楽しんだり、共に高めあうことが大切だということを感じています。そして、趣味や性格が合わなくとも一緒にいて楽しい人はたくさんいるということを感じ、日々

の生活が今までよりもより良くなるものになっていきます。自分が生きていくために必要なことを多く学べ、自分にとって大切な出会いができる学校であると思います！みんな、あと少しだけよろしく!!!

今年度は新しく女子寮ができて、今年から初代女子寮長をさせて頂いています。何もないところからの出発なので、分からないことが多く、ほぼ手探り状態でした。何も決まっていなくても生活は始まるので、不便が起こったり、問題が起こったりと解決しなければいけないことがどんどん溜まっていききました。なかなか上手いかずイライラしたり落ち込んだりした時もありましたが、そんな時は林大の仲間が色々お手助けしてくれま

した。一緒に生活しているからこそ、我慢しなければいけない時もたくさんありますし、頼らなければいけない時もあります。林大での生活は二年間と短いですがその分どこにも負けないくらい濃い二年間が過ごせると思います。



2 学年 岐阜森林文化アカデミー交流授業
(高性能林業機械研修)

れからは皆にもっと頼ってしまおうと思います。まだまだ未熟な女子寮長ですが、皆と楽しくやっていきたいのでよろしくをお願いします。

昔のこと、 未来の森。



2 学年
湯澤 充尋

な視点で物事を見ないといけない林業にこそ、こういう文理融合的な考え方が当てはまるんじゃないかと思うようになってきた。森林を通して過去を覗くと、未来の社会が見えてくるかもしれない。この場所のでこれから一生かけて向き合っていけるテーマに出会えてよかったと思う。

林大に来てから、少しずつ歴史や文学に興味がわいてきた。特に郷土の歴史に。林大の講義を受けていると、

長い時間の中で人が森林にどう働きかけ、また影響されてきたかが見えてくる。技術やシステムだけでなく、文化や文献にも触れなくなってきた。最近では、土地と密接に結びつき長期的



2 学年 木材商業論（勝野木材）

保護者の
ページ

絵の一言

独り立ちする子へ

大野 恭裕



「おぎゃー」と生まれてからいろいろなことがありました。親として二人目の子供でありましたが手のかかる子で、親が変わらなければ子供も変わらないと思い、さまざまなおことに親子ともどもチャレンジしてきました。父親として成長できたのはこのときの経験があったからだと思う今日この頃です。

そんな気持ちの中、いよいよ私の手の中から飛び立った真裕は、これから始まる学校生活に少し不安な表情を浮かべながら林業大学へ入学していききました。そんな後ろ



入 学 式

姿を見て「きつかったら帰って来ていいよ。」と私は心の中でささやきました。しかし、そんな心配も最近ではどこへ行ってしまったのか電話もメールもよこさなくなり、林大ライフを楽しんでいるようです。

会うたびに「考え方が少し大人になったかな。」と感じることもあり、寮生活から学ぶ良い機会になっているようです。

これからも残された学生生

活を大いに楽しみ自分の将来も考えてもらえたらと思います。

自分の足で 一歩ずつ

清水 三保子



泥んこが嫌い。水たまりに入りたくない。虫が苦手な息子が林業と出会ったのは中三の職業体験でのこと。その後自分で選んで農業高校に入学し、次の進路は自分で見つけてきた「林業大学校」。人の前で話すことが大の苦手なのに、面接試験に挑戦。

何故林業なのか。人に交わることが上手でないのに寮生活ができるのか。親には疑問と不安ばかりが大きくなりました。

半年がたった今。親の思いをよそに学校での勉強、寮での生活の様子を楽しそうに話す息子を見てみると、自分の力で進みたい道を見つけ、一

歩ずつ歩んでいる姿にたくましさを感じるようにになりました。

あと一年半で何歩前に進むのか。たくさんでなくていい、人との出会い、そして、感じる心を大切に、自分の足で一歩一歩、歩んでほしいと願っています。

最高の人生を 送るために

野田 誠一



昨夏オープンキャンパスを見学するために訪れた木曾は、清々しく気持ちのいい所でした。「ここだな勉強する所は」直感的にそう感じました。中学は教師への不信任で不登校になり、三年間まとまらな学校に行かず大変心配しましたが、高校は夢を見つけ、成績も学校の評価もすば



寮 生 活

らしいものでした。これからの進路と親が心配するまもなく「長野に林業大学校があるのでそこに行く」といい、情報を調べると教育上も経済的にもいい学校で、熊本県よりも林業先進県で学ぶということでは文句なしの感じがしました。オープンキャンパスで感じたのは、豊かな自然、充実した講師陣、人間関係も学ぶことができる寮生活、交通の便など「いいね」と本人も家族も同じ意見で決定しました。学校が始まり、農業高校出身の娘は普通科目に苦労しているみたいですが、学校行事を楽しんでいます。親としてはどの子にも思うことです。最高の人生を送るために学んでほしいと願います。

新しい 出会いに感謝

藤沢 雄二



かれこれ六年前、『ながのけん』の広報に林業大学の生徒募集を見て、まだ中学一年だった息子に勧めたのがきっかけでした。

それから、林業について調べたり、林大に進学するにはどの高校へ進むべきか考えたりしました。高校に入ってから林大のオープンキャンパスに行き、何度か見学させていただき、親元を離れ皆と寮生活ができるのか悩んでいたことを思い出します。

林大に入学してからはあんなに悩んでいたのが嘘のように、「学校や寮生活が楽しい」「寮のご飯が美味しい」と充実した毎日を送っているようです。そんな楽しく過ごせる環境を作ってくださる先生方や先輩の皆さん、美味しいご飯を作ってくださる寮母さん

に感謝しております。

林大生としての生活は二年間と短いですが、その中で多くの知識と技術を学び、周りの素敵な仲間と共に一回りも二回りも成長することを期待しつつ心から応援しています。

「ガンバレ

林大生」

山下 和彦



息子が林業大学校に入学して、早いもので半年が過ぎようとしています。

高校が同じ地域で、寮生活だったこともあり、心配はありませんでしたが、学校生活やバイトなどに忙しく、充実した毎日を過ごしている様子を見ると、林大に入れて良かったと思っています。

中学生で、林業に携わりたいと言いついた時は、半信半疑でしたが、ここまで着実に思い描いた道を進んできた息

子を頼もしく思います。

今の社会人の大半は、おそらく学生の時に思い描いた未来とは違う道に進んでいるのだと思いますが、林大生のみなさんは、明確な目標を持ち、この学校で学び自分の道を歩もうとしている人だと思います。

この学校で習得した事と、一緒に学んだ同窓生と先輩を一生の宝として、我が子を含めて、世の中に貢献する人材になってほしいと思います。ガンバレ林大生！

夢に向かって

ファイト

岡本 和明



日々先生方や寮母さん、それから林大生の皆さんとお世話になっており私達保護者としても感謝しています。

入学当初は全寮制ということで食事など生活環境では先生方や寮母さんがいらつしや

るので安心していましたが、人間関係では「みんなと一緒に仲良く生活できるかな」という不安がありました。私以上に本人が不安だったと思います。

入学式を目前にして引越しの時、上級生が親切に荷物運びを手伝っていただいた時は本当に感動しました。「林大生はとても良い学生さんだ」というのが第一印象です。

林大で貴重な体験はいろいろあると思いますが、その中で一番は全寮制の共同生活だと私は思います。寮の規則を守りながらの共同生活はともむずかしいことです。

この二年間寮生活を体験して自分勝手に生活していると他の人に迷惑がかかること、お互いに協力しながら生活していくことを実感したことを思います。

この体験は必ず社会で生きていくことでしょう。どんな仕事も大体がチームワークでやっていくものです。

来年から社会人になっていきますが林業の現場は危険な作業もあるかと思っています。

林大生の皆さん安全第一で頑張ってください。

お知らせ

来年6月5日(日) 開催するよ！



長野県PRキャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ



ひと ゆめ みどり
第67回 信濃から 未来へつなぐ 森づくり

全国植樹祭 2016

ながの

支え合い、
助け合い

酒井 瞳



「世の中には二通りの人間

がいる。強い人と弱い人、で

きる人とできない人、厳しい

人と優しい人、社交的な人と

内気な人、両方いるからバラ

ンスが保てている。みんなが

強くてよくできて厳しくて社

交的な人ばかりだったらどう

だろう……。うまくいくとき

は、誰かが支えてくれている

から。厳しいと感じるのは優

しくされることがあるから。

おしゃべりができるのは、聞

いてくれている人がいるか

ら。」先日このような文章を

目にした。いろいろな人間が

一緒にいるから世の中が回っ

ていく。支え合い助け合いな

がら生きている。だから自信

を持って生きて行こうという

ことだ。

親元を離れて一年半。内向

的な息子が少しでもたくま

くなつてほしいと願い送り出した。先生方や仲間を支えながら元気に学生生活を送っていることをうれしく思うとともに、感謝の気持ちでいっぱいだ。人を思いやる気持ち、感謝の気持ちを忘れず、お世話になった方々に少しでも恩返しをしてほしいと思う。そして自分も誰かを支えられる人になれるよう、自分をきたえてほしいと願う。

目標に向かって

高木 みはる



息子が、林大に入って

から、あつという間に一年半が

たつてしまいました。思え

ば、中学一年生の時に林業に

関してのテレビ番組を見て

「オレ林業やる。」と、言っ

てから高校生になってからも目

標は林業で、進学先の希望は

三年間かわらず林業大学校で

した。



体験研修発表会

林大に入ってから「林業は現場での作業がしたい。」と言ってインターンシップも現場を見させていただき、少しもブレない目標に向かってまっしぐらという感じで、我が子ながら偉いなど、学生の頃たいした目標もなかった親は、感心しております。勉強もしながらバイトもして、入学式の時に先生に言われた通り、親からの仕送りもなしで、がんばった林大での生活は、息子にとってこれからの大切な力になると思います。林業の新たな目標を持って、これからはがんばってほしいと思います。

感謝と希望

三浦 聡



卒業まであと半年。息子は

この夏、成人となりました。

卒業後、自分で選んだ職に就くといいま

す。遊びとバイトで明け暮れていた自分

と比べると、少しずつ成長した息子を見

るにつけ、沢山のこ

とを学んでいるんだと感

じてきました。林大での講義と実

習、寮生活、先輩・後輩との関わりの中

から得られたものと感謝しています。

ちょうど一年前、御嶽山の噴火を体験

しました。多くの人が亡くなり、家族

の笑顔が奪われま

した。自然を相手

に、自然と共生する

仕事に就く息子達には、大自然への畏敬の念をいつも抱いていてほしいと思います。そして「笑う門には福来る (Fortune comes in by a merry gate.)」使い古された言葉ですが、相手の目を見て挨拶すること、笑顔を絶やさず周りの人達を笑顔にしようと思うことを心掛けてほしい、私たちから若者への希望です。



林大生勢揃い

いい樹？
わるい樹？征矢野建材株式会社
ウッドパーク
村井 勇睦
(第6期生)

どうも村井と申します。この私も昔、二十歳前後の若いう時代に木曽福島の山間で林業やら木材利用やらについて学んだひとりです。もう三十年も前の事になるんですね。まあ、その時は気が付かな

地域の伝承を
受け継ごう教授 直子
平澤

この四月から、林大に参りました。林大も木曽も初めてで、保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になります。が、よろしくお願いいたします。やっと学校生活には慣れて

かったのですけれど、樹も人も良く似てるなあと最近思うのです。

多かれ少なかれ樹には、あて〴〵という欠点(？)：人間が建材等を使う時はやっぱり欠点なんですね。がありますね、みなさん知っての通り、外からかかる力：風だの重力だの：に知らぬ間に木が対応して比重を高くしてしまつた部分です。見た目は無地なんです。きれいですよ、ちよつと見は。樹は自らの体の一部分が欠点だなんて一切思つてな

檜のアドバイス

きましたが、いつも新しいこと(授業でも、学生の生活も)が起きるので毎日が新鮮です。

さて、一年生の皆さんには、夏休みにこんな課題を出しました。「あなたの地域に伝わる山や森、川や湖にまつわる伝説を調べて書きましよう」。幼い頃から昔話に親しんだ学生もいるでしょうが、もう一度自分の地元を知つて、山や森との繋がりを考えてもらいたいと考えました。

いんですよ、人が使う時、初めて欠点になるんですから。人もそんな所があるんじゃないかなあつて思う時があるんです。ちよつと難しいのですが、人の性格にもいろいろあつて、当の本人が気付いてなくてもそこが周りには迷惑だったりする。でも、その人が置かれてる環境だったり、ポジションだったり、職種によつては、欠点？が浮き彫りにならない。要はその人を見る側の〴〵によつて欠点になったりならなかった

この機会に、お家の方に色々とお聞きした学生もいたようです。ご協力いただきありがとうございました。

集まつた課題には、色々な伝承がありました。

ディダラボッチが山を造り、龍神様や地元を守つた姫様がいました。巨木や岩にまつわる伝承や、実家の近くの水源にまつわる伝承も多く調べてきてくれました。

りするんですね。

確かに会社では、見なきゃいけない方向は決まっていますから会社組織の中では欠点に成り得る事は多々ありますが、見る側の視野が狭いと必要以上に欠点を作り出してしまつて事がよくあるんじゃないですかね。人間関係の中でも同じ様な事があると思います。

今、私は信州の樹で無垢のフローリング材を作っています。主に赤松なんですけれども、検品の業務に就く事がある、社内基準はあるんですけど、検査する人

は、社内基準はあるんですけど、検査する人

神様と深いつながりがあります。山の神様のお祭りがありますし、山に入れば祠があつて、私自身もその前を通る時には頭を下げてから通ります。

また私の生まれ故郷諏訪では、御柱祭があります。諏訪大社の御柱祭は有名ですが、諏訪では各集落の氏神様から道端の小さな道祖神様まで四本の御柱が建てられていきます。その御柱は各地区のお山から伐り出されますが、その際切り株に伐つた木の梢の枝を刺して奉ります。それを見

の目によつて、また思いによつて違つちゃう事があるんですが、会社的にはダメです。大切な長野県の森林資源を活用しよう！つて思いから始まつているから結構難しいんです。なるべく製品にして世の中に長野県の樹を送り出したいし、クレームの付く様な製品は出荷できませんからね。

樹も人も使う側、接する側の思いや見方で良くも悪くもなるものなんです。確かな目を養いたいものです。

た時には、厳かな気持ちとなり、こういったときたりもぜひ受け継いでいきたいと感じました。

これから林業に関わっていく林大生の皆さんには、山に入る時、山で仕事をする時に、気を引き締める意味でも、山の神様のことを考え、敬虔な気持ちになつてほしいと思います。そして、地域の伝承やしきたりを、昔から今に引き継がれてきた大切なことを、ぜひ受け継いでいってください。

2015 オーストリア研修苦労話

2学年担任 吉川 達也

7月5日(日)から13日(月)までの9日間に2年生20人を引率してオーストリア研修へ行ってきました。現地では天気にも恵まれ、「担任の普段の行いがよいとこうなる」と学生20名に、そーい聞かせながらの研修でした。(笑)その研修中での苦労話を少し紹介します。

研修期間中、ホイーマーダー氏、ハーガー氏、そして通訳の青木氏には大変お世話になりました。この3名の方々には研修前からお世話になっており、青木氏とのメールのやり取りを通じて研修内容を詰める中で、青木氏が現地の両氏にドイツ語で伝え、日本語に換えてメールしてもらう。こちらからメールしても当然3名の方は仕事なので、時差もあり、直ぐには返信が来ません。余裕をみて4月上旬からメールを始めましたが、行く直前の3ヶ月間もメールでやりとりしていました。3名の方々の献身的な対応に、頭を深くさげつつ「ダンケシェン」。

現地へ行って大変だったのは、お金の支払い。支払いは現金(ユーロ)が基本で、普段持ち慣れていないせいか、研修のお金を持って歩くのは、緊張の連続でした。青木氏に通訳してもらいながら、支払いをして、何書いてあるのか判らないけど、領収書(領収書らしきもの)をもらう。(日本の領収書はしっかりしているなと思いました)そして最後に「ダンケシェン」。

今年は、過去の研修ではなかった試みがありました。5時間かけた駅から駅までの電車での移動です。車両の何番から何番までの座席を予約し、各自の大きな荷物を座席の間(荷棚も含む)に収める方法でした。乗車したインスブルック駅が通過駅だったので、電車を待ち構えて「それ来た」乗るはずの車両が予定通りの位置に来ない、「それ荷物をガラガラしろ」「それ荷物をバケツリレーして積み込め」、「荷物の次は人が乗り込め」、周りは外国人さんだらけの中で、日本人25人が必死になって乗り込む。全員が席に着いた時には皆ぐったり。だれもが必死だったため、この時の様子を写真に収めておらず、写真や動画でこの大変さを伝えることができずに残念です。(写真は乗込み後の写真)

一旦、電車に乗ってしまえば、車窓からはオーストリア独特の風景。そして2駅にひとつはあったのではないかなと思うくらい頻繁に見えた製材工場と丸太のはい積み風景。電車の旅ならではのよさがあり「ダンケシェン」。

5時間乗って安心もつかの間。今度はレオーベン駅で降りる時でも、乗る時と同じで、「それ荷物のバケツリレー」、「早く降りろ」、「居ない奴(乗り過ぎた奴)はいないだろうな」、「激しい雨が降っているな」…とドタバ



乗込んで移動中の車内

タでした。その時の雨は局地的な嵐だったそうで、その嵐は大きな爪跡を当地に残していきました。

行く前は、市内観光に行けば必ず数名は時間内に帰ってこないだろうと心配していましたが、さすが皆時間内に帰ってきてくれて安心しました。

今回の研修から林大に帰ってきた時には、林業の先進地で勉強してきたせいか…、いやそれだけでなく、20人が連携を持ちつつ、自分の責任で行動することができる大人に近づいたかなと、ひとまわり大きくなったことを素直に感じました。「ダンケシェン」。

インスブルック市内の象徴的な建築物「金の屋根」の前にて



編集後記

校舎の廊で男女が話し込んでいる。

試験の話?就職の事?何の話をしているのか。詮索は御

法度だが気にはなる。

宮本輝の「青が散る」を久しぶりに思い出した。好きな小説の一つだ。

若い登場人物たちが織りなす青春小説。この青春時代に生きる葛藤や慟哭など同感すること多かった。読み方は人それぞれであるが、前向きに生きていこうとするメッセージを感じた。

青春時代は悩み多く、苦しい。学生生活において何を「思い」「考え」「感じ」そして「経験」するかは、人それぞれ。過ぎ去った日がいかに尊いものであるのかは、後になって気づくものだ。

自らが手を挙げ、自らの意思で一歩前へ歩みださなければ事は進まない。

学生諸君よ。二年間の林大生活、時には泣いちゃう事もあるけれど、悔いの残らぬよう過ごしてほしい。

(T)